

## 30年8月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査1

1. 調査実施期間 平成30年 8月1日～ 30年8月10日

## 2. 調査実施方法

全国の構造用集成材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
8月分の回答企業数は4社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) ラミナ荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
入荷動向	国産材	16.7	△ 16.7	0.0
	外材	16.7	△ 16.7	0.0
在庫動向	国産材	0.0	0.0	0.0
	外材	16.7	0.0	0.0

・国産材、外材ラミナの入荷動向は8月の増加から9月は減少、10月は横ばいに。

・国産材ラミナ在庫動向は3カ月連続横ばい。外材は8月の増加から9月、10月は横ばいに。

## (2) ラミナ購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/8月	9月	10月
国産材	0.0	0.0	0.0
欧州材	16.7	16.7	16.7
その他	0.0	0.0	0.0

・国産材ラミナの購入価格動向は横ばい。

・欧州材は強含み。

・その他（米ヒバ）は横ばい。

## モニターからのコメント

## (ラミナ荷動き)

・契約分の欧州材が順調に入荷。生産減により在庫増。  
・国産材ヒノキの入荷動向は、8月入荷を増やしたが9月は若干減らす見込み。大口のヒノキ集成材顧客がコストを重要視し、スギ集成材に樹種を切り替えを検討しているという情報を掴み、他社購入に売材ラミナ入荷は9月、10月と様子見とする計画。米ヒバは、当社の生産が上がらなかつたため入荷を抑えてきたが、8月から通常の月間1,200m<sup>3</sup>程度の入荷に戻した。9月以降も同様のペースで入荷していく予定。  
・国産材ヒノキラミナの在庫動向は、集成材生産量 < 自社製材量+売材ラミナ の状態であったが、9月以降は集成材生産とラミナの入荷バランスが取れて、当面は適正在庫で推移。米ヒバは、一時の現地での素材集荷難は完全に払拭された。8月、9月と秋需に向け穏やかに注文は増加、生産も上がってきたため、ラミナは適正在庫で推移するものと思われる。

## (ラミナ価格動向)

・第2クオーターの欧州材が入荷中。為替確定のため単価は同じ。  
・国産材ヒノキラミナの購入価格は、7月の西日本豪雨があり原木入荷が非常の厳しいが、値段を上げずに何とか集荷できている。今後秋需を控え、各製材工場は忙しくなると予想されるため、強含み傾向が続くと見られる。集荷に苦慮する。欧州材は、世界的に木材需要は高まっている。したがって、対日向けのオファーについても欧州サプライヤーは強気に出てきており、第3QTのオファーは第2QTより値上り決着と聞いた。一方、国内市況から鑑み完成品の値段は中々上げられないため、国内集成材サプライヤーは非常に厳しい運営を強いられるものと思われる。米ヒバは急激に値上がりした米国向け米スギ材の代替需要により、米スギにつられて値段が上がってきたが、ここにて米スギ価格は完全に天井に達し下落し始めた。米スギが手に入るのであれば米ヒバに対する代替需要も落ち着き、現在では横ばいから若干弱含み基調で推移している。

## 30年8月分 構造用集成材工場の荷動き・価格先行き動向調査2

## (3) 構造用集成材荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/8月	9月	10月
生産動向	国産材	0.0	16.7	16.7
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	△ 16.7	16.7	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	0.0	0.0	0.0
出荷動向	国産材	0.0	16.7	16.7
	WW集成管柱	0.0	0.0	0.0
	RW集成平角	0.0	16.7	0.0
	米マツ集成平角	0.0	0.0	0.0
	WW集成平角	—	—	—

・国産材構造用集成材の生産動向は8月の横ばいから9月、10月は増加に。WW集成管柱、米マツ集成平角は3カ月連続横ばい推移。RW集成平角は8月の減少から9月は増加、10月は横ばいに。

・出荷動向は国産材は8月の横ばいから9月、10月は増加に。WW集成管柱、米マツ集成平角とも3カ月連続横ばい推移。RW集成平角は8月の横ばいから9月は増加、10月は再び横ばいに。

## (4) 構造用集成材出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	30/8月	9月	10月
スギ集成管柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成柱	0.0	0.0	0.0
ヒノキ集成土台	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成土台	0.0	0.0	0.0
WW集成管柱	0.0	0.0	25.0
RW集成平角	△ 16.7	0.0	16.7
米マツ集成平角	50.0	50.0	0.0
WW集成平角	—	—	—
米ヒバ土台角	0.0	0.0	0.0
カラマツ集成平角	—	—	—

・構造用集成材の出荷価格動向はスギ集成管柱、ヒノキ集成柱、ヒノキ集成土台、カラマツ集成土台角、WW集成管柱、米ヒバ土台角とも横ばい推移。

・米マツ集成平角は強含み。

・RW集成管柱はやや弱含み。

## モニターからのコメント

(構造用集成材の荷動き)

・暑さプラス盆もあり生産調整。前月比同等出荷も計画より10%減。  
 ・ヒノキ桧集成材の生産動向は、7月から市況が徐々に回復してきており、工場の生産性を上げて増産させるべく努力していたが、8月は猛暑の影響からか機械トラブル続出、お盆休みの不規則操業もあって生産は期待した通り伸びなかった。9月以降、秋需への対応も控え挽回を期待する。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、競合するスギ集成材が価格競争力があり、更に製品在庫も相当量積み上げているとの噂もあり、管柱マーケットの動きは鈍いと思われる。多少市況が回復しても中々増産に繋がる要因がないのではないかと。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、8月も荷動き未だ悪く販売苦戦していると思われる。輸入完成品が春先に大量入荷し、決して住宅マーケットは低調な動きではなかったが、在庫過多となったため製品の荷動きは悪かった。秋需に向けて在庫調整が進むと予想しているが、未だ輸入製品を含め製品在庫は重たいとの噂を聞く。中々増産に踏み切れる要因がないのではないかと。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米マツラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。今後その影響で受注が減る＝生産も減る可能性も。米ヒバ集成土台は、春先は大きく販売数量を落とした米ヒバ集成材であったが7月頃から少しずつ注文も戻りつつあり、それに伴って生産も8月は少し増産する計画であったが、猛暑の影響からか機材トラブル多発と、お盆休みの不規則操業も相まって期待したほど生産伸びず、9月以降挽回を期す。  
 ・ヒノキ集成材の出荷動向は、7月好調に販売推移したが、8月はお盆休みもあり7月と比較するとやや低調となった。また、米材全面高の影響から米材を素材にした防腐注入土台からヒノキ集成材に代替需要が発生しており、レゾ系に注文が集中、イソ系の注文は逆に減少し注文のバランスが悪く、注文があるのに出荷が遅れる原因になっている。WW集成管柱は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、競合するスギ集成材が価格競争力があり、更に製品在庫も相当量積み上げているとの噂もあり、管柱マーケットの動きは鈍いと思われる。多少市況が回復しても中々出荷増に繋がる要因がないのではないかと。RW集成平角は、当社では生産していないが、一般的な同業他社の情報によれば、8月も荷動き未だ悪く販売苦戦していると思われる。輸入完成品が春先に大量入荷し、決して住宅マーケットは低調な動きではなかったが、在庫過多となったため製品の荷動きは悪かった。秋需に向けて在庫調整が進むと予想しているが、未だ輸入製品を含め製品在庫は重たいとの噂を聞く。中々増産に踏み切れる要因がないのではないかと。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。今後その影響で受注が減る＝生産も減る可能性も。米ヒバ集成土台は、春先は大きく販売数量を落とした米ヒバ集成材であったが7月頃から少しずつ注文も戻りつつあり、それに伴って生産も8月は少し増産し、出荷も増える見込みであった。しかし、猛暑の影響からか機材トラブル多発と、お盆休みの不規則操業も相まって期待したほど生産伸びず、出荷に繋がれなかった、注文はあるので、9月以降挽回を期す。

(構造用集成材の出荷価格動向)

- ・RW集成平角は下げ止まった感じはしている。
- ・スギ集成管柱は、当社生産品目ではないが、スギ集成管柱は大手メーカーが安定量産体制を整えたことから、在庫を潤沢に抱えているとの噂もあり、一部価格の弱含みも聞く状態。弱含み傾向で当面横ばい推移と予想する。ヒノキ集成柱は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたい所だが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶はできない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。ヒノキ集成土台は、原料価格は原木などジリジリっと値上がりしたこともあり、製品価格も値上げしたいところだが、来年以降の需要減少に備えてあまり無茶は出来ない、価格は当面維持して、それよりも値上がり傾向の他樹種材料からのシェア奪取を図る。カラマツ集成土台は、当社生産品目ではないが、同業他社の話によれば、年明け以降荷動きは急激に低下、4月以降徐々に盛り返してきているものの、どちらかと言えばまだ低調気味。価格は1月に一度値下がりしてから横ばい推移が続く。WW集成管柱は、当社では取扱いがないが、一般的な同業他社の情報によれば、値上がり傾向できたものの、前述のスギ集成材が国内マーケットである程度のシェアを持つに至り、スギ集成材との価格バランスの兼ね合いから、価格は1,900円/本位での横ばい推移とのこと。荷動き悪化のため価格を上げるチャンスもなく、一方原料コストはジリジリと上昇するため国内メーカーは非常に苦しいポジションではないか。RW集成平角は、ラミナコスト上昇に伴い製品販売価63,000円/m<sup>3</sup>程度まで上昇したが、それ以降荷動き低下し販売苦戦。ここに来て国内メーカーが値下げ販売しているとの話も聞く。原料のラミナコストは一方向的に上昇しているため、国内サプライヤーは非常に苦しいポジションを強いられているものと推察する。米マツ集成平角は、当社では生産していないが、増産、減産の話はあまり聞かれない、そもそも米松集成材はWWやRWと異なり、一部の高強度を求める顧客用や非住宅向けが中心、限られたマーケット故、大勢への影響は微小と考えられる。ただ、米松ラミナ原料のコストは急激に値上がりしており、製品の値上げも行われていると聞く。米ヒバ土台角は、この一年間で最も値段が上がった並材製品と言える。この一年間苦しい値上げ交渉を続けて来たが、2018年1月を以てほぼ値上げの交渉が完了した。2018年4月からようやく全ての顧客に新単価が適用できるようになった。今後の価格については当面様子を見る。